

平成27年度 第2回国見学園コミュニティ・スクール委員会 次第

期 日： 平成27年 7月 8日 (水)

時 間： 13:30 ～ 16:00

場 所： 国見町役場庁舎 大会議室

受 付 (13:15～13:30)

全体進行：次長

1 開会のことば (13:30)

2 会長あいさつ

3 教育長あいさつ並びに講師紹介

4 協 議 (13:35～14:40) 議事進行：会長

(1) 「国見学園構想 ～国見学園をつらぬく柱～」について Part 2

(2) 国見小学校の特色ある学校経営について

～休憩・準備～ (10分間)

5 講 演 (14:50～16:00)

『 未来は今、ここにある

「地域とともにある学校」づくりをめざす私たちの実践 』

講 師 文部科学省コミュニティ・スクール推進員 (CSマイスター)

三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会

四柳 千夏子 (よつやなぎ ちかこ) 様

6 御礼のことば (会長)

7 閉会のことば

* この会議は、国見小学校学校運営協議会、県北中学校学校運営協議会、
くにみ幼稚園学校運営協議会の会議を兼ねて開催しております。

平成27年度国見学園コミュニティ・スクール委員会委員名簿

No.	名 前	区 分	役 職 等	備考
1	松浦 常雄	学識経験者	元藤田小学校校長	会長
2	高橋 弘信	地域住民	社会教育委員の会議代表	副会長
3	黒田加津臣	〃	藤田地区町内会長代表	
4	佐藤 正春	〃	森江野地区町内会長代表	
5	佐藤 清二	〃	小坂地区町内会長代表	
6	渋谷 福重	〃	大木戸地区町内会長代表	
7	鈴木 節朗	〃	大枝地区町内会長代表	
8	金田 由美	保護者	国見小学校PTA副会長	
9	菅野 祥子	〃	県北中学校PTA会長	
10	紺野 由美	〃	くにみ幼稚園PTA副会長	
11	井砂のり枝	教育委員会が適当と認める者	文化団体連絡協議会代表	
12	佐藤 辰雄	〃	国見町体育協会代表	
13	佐藤 幸教	〃	スポーツ少年団指導者	
14	鈴木 道代	〃	放課後子ども教室コーディネーター	
15	阿部 紀子	〃	図書専門員	
16	中野由起子	〃	学校支援地域本部コーディネーター	
17	酒井 隆志	当該設置校の校長	国見小学校長	
18	湯浅 英生	〃	県北中学校長	
19	佐藤 幸英	〃	くにみ幼稚園長	
20	阿部 正子	教育委員会が適当と認める者	藤田保育所長	

【事務局】

国見町教育委員会 教 育 長 岡崎 忠昭
 教 育 次 長 引地 由則
 幼児教育課長 中田 利枝
 生涯学習課長 羽根 洋一
 指 導 主 事 齋藤 雅敏
 学校教育係長 黒澤 敦子
 学校教育課主事 三村 知子

平成27年度第2回国見学園CS委員会 文科省CSマイスター「講演会」

「コミュニティ・スクール」創生期として大切なことを学びます

演題

未来は今、ここにある

「地域とともにある学校」づくりをめざす私たちの実践

講師紹介

文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）

三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会

四柳 千夏子 氏

主な略歴

- 平成17年三鷹市小中一貫教育校開設準備検討委員
- 平成20～21年度三鷹市立第四中学校PTA会長、三鷹市公立学校PTA連合会副会長
- 平成23～25年度三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会会長
- 平成24年度地域とともにある学校づくり推進協議会（福島会場）分科会での事例発表の他、コミュニティ・スクール導入における事例発表多数

期日：平成27年7月8日（水）

時間：14時50分～16時00分

場所：国見町役場庁舎2階 大会議室



平成27年度 国見小学校第1学期の取り組みから

I 学力向上について

1 知能検査の結果から

今年度の1年生、2年生、4年生、6年生の知能検査の結果及び昨年度実施された2年生、4年生（現3年生、5年生）の結果を合わせてみると、本校の各学年の児童の知能の偏差値平均は、おおむね52～54の中に入っていることがわかった。

全国平均が50であることから、国見小の児童は比較的知能が高いと推測される。

2 知能検査と学力検査の相関から

学力検査は教研式NRT（標準化された学力検査）を実施しており教研式知能検査と相関を見ることができる。全校的に見ると、知能から期待される学力以上の結果が出ており、子どもたちの学習状況は概ね良好であると判断される。

しかし、学力の分布状況や領域別の学力定着状況には課題がある。また、学年ごとに学力の状況はやや異なることや算数においては低下傾向の学年もある。また、全国標準学力テスト（文部科学省実施）の結果もあわせて検証してみると、特に算数科においては学校全体として改めて学力向上対策を講じる必要があり、重点的に取り組むこととした。当然中学校の学習につながるよう、基礎・基本に関わる数・式の領域については全校的に取り組むこととした。

3 「百マス計算」の取り組みについて（くにみっ子21 No.1）

学校の重点実施事項を具体的に定めた「くにみっ子21」に「百マス計算」を取り入れた。今年度3回（各学期1回ずつ）実施し、児童の変容を見る予定になっている。

第1回をすでに実施したが、学年が上がるにつれて成績がよくなる（速くできる）傾向が確かめられた。「百マス計算」を取り入れて練習している効果があると考えられる。

しかし、全体的にひき算が極端に遅くまだ練習が足りないことなどの課題も明らかになった。家庭学習と関連させて「百マス計算」の効果を高めたいと考えている。また、個々の児童について、計算の誤りや苦手としている段の傾向を確かめ、一人ひとりの課題に即して家庭と協力しながら学力向上を図りたい。

【第1回百マス計算大会の結果】

	かけ算			たし算			ひき算		
	金賞	銀賞	銅賞	金賞	銀賞	銅賞	金賞	銀賞	銅賞
3年	2	22	19	0	5	19	0	6	5
4年	2	22	25	1	16	27	0	9	7
5年	12	38	16	3	16	22	0	11	18
6年	30	45	9	13	47	21	5	26	32
合計	46	127	69	17	84	89	5	52	62

※ 金賞は1分台、銀賞は2分台、銅賞は3分台

II 体力・運動能力の向上や肥満防止について

1 課題

体力・運動能力については、大震災の影響や生活習慣による運動不足の影響があり、改善が大きな課題であった。体力・運動能力については、全体的には改善の傾向ではあるが、学年ごと、種目別等で見ると依然として課題があり重点的に取り組む必要がある。当然肥満とも関連しており、全国と比較すると肥満傾向の児童数の割合は高い。肥満解消に向けた取組を進めていく必要がある。

2 「くにみっ子 JR マラソン」の取り組みについて（くにみっ子 2 1 No. 1 7）

昨年度は、9月から始まったため、12月で終わってしまった（1番走った児童で栃木県に入るところで終了）が、今年度は4月から取り組んでいるため、大勢の児童が1枚目の福島駅を超えて走っている。特に、1年生が朝、休み時間、児童クラブの遊びの時間を利用して走っているため、多くの子どもが1枚目を終了して意欲的に取り組んでいる。

くにみっ子 JR マラソンの取り組み状況（6 / 1 9 現在）（単位：人）

	1 貝田～福島	2 福島～二本松	3 二本松～郡山	4 郡山～矢吹	5 矢吹～豊原	6 豊原～郡山
1年	39	17	6	5	1	
2年	45	14	3			
3年	59	12	1			
4年	55	14	3			1
5年	63	10	1			
6年	75	11	4	1		
合計	336	78	18	6	1	1

現在は、集計した6月19日より10日以上経ち（7月1日作成）、更に42人以上の児童が1枚目を終了している。合計約380人が1枚目の福島駅まで完走したことになる。これは、全体の86.4%にあたる。これからも、2・3・5年生あたりに意識的に声かけをしながら取り組みを推進していきたい。

JRマラソンに取り組んでからは肥満傾向の児童数は減少してきており効果は高いと考えている。

しかし、太りすぎ及び太りぎみに属する児童は走ることに苦手意識を持っているためJRマラソンの取り組みについて消極的な傾向にあり、ほとんどマラソンカードの1枚目を終了していないという実態がある。このような走ることに苦手意識を持つ児童に対しては別の方策もあわせて行う必要がある。

3 「くにみっ子遊友ランド」の取組について（くにみっ子 2 1 No. 1 8）

肥満化傾向の抑止にはJRマラソンの取り組みは有効であると思われるが、すでに肥満傾向に属している児童には、一輪車のようなマラソン以外の遊びやスポーツに興味を持たせ継続的に取り組ませていく必要を感じている。

校庭の遊具等を使って遊びながら運動量を確保することがねらいの取り組みとして、今年度一輪車練習用スタンドを2台、校舎前のアスファルト部分に設置したところ、それを使って一輪車の練習をする児童が増え、乗れるようになった児童が多くなった。今後、乗れる児

童数や乗れる距離を数字化して児童を賞賛し、励ますようにしたい。

また、新しい遊具のマイロをはじめとして校庭の遊具の活用や例えばスポーツチャンバラなどゲーム性が高く興味を持って運動するような種目や遊びも今後工夫していきたい。

Ⅲ 読書推進活動

1 家読運動の推進

昨年度の引き続き、「4^よ～6^む日のつく日は家読の日」として、家読の推進をしてきた。また、図書館だよりにて各家庭の家読の取り組みを紹介して取り組みの推進をしてきた。

2 学校図書館の活用

福島県のサポートティーチャー制度を活用し、学校の図書室にサポートティーチャーを一回2時間、年間34回配置し、図書室の整理や本の貸し出し、読み聞かせボランティア等の世話等の仕事をしてもらっている。

また、山形県鶴岡市から学校図書館アドバイザーの五十嵐絹子氏を招聘し、図書室を調べ学習に適した図書室に改造する計画で、第1回の研修と作業を8月19日（水）に予定している。

Ⅳ 「国見学」の推進

1 現職教育への位置づけ

今年度現職教育で「国見学」に取り組むことにした。とりあえず1学期は、各学年のどの教科でどんな題材が「国見学」として考えられるかの洗い出し、一部授業で取り組みが始まった。2学期以降に実際の授業で授業研究会や公開を検討していく。

2 実践例

(1) ー6年「国見町歴史探検隊」の取り組みー

6年生がA班とB班のに分かれて2台のバスに乗り、岩淵遺跡 → 森山4号墳 → 二重堀 → 八幡塚古墳 → 小坂峠（B班は逆コース）を、町歴史ボランティア、町企画情報課・生涯学習課職員のガイドで見学し総合の時間の学習をした。

(2) ー5年生「やってみよう！国見でできる生産活動」ー

昨年まで、JAのバケツ稲栽培に取り組んできたが、今年度は小坂アグリ協力を得て、バケツで「天のつぶ」の栽培に取り組んでいる。